足守ゆかりの人物伝

「天然痘」「コレラ」と闘った近代医学の祖、偉人たちの師

緒方洪庵（おがたこうあん）

（1810年～1863年）

自分のためではなく人のために生きるのが医者
自分の楽しみ、名誉、利益を顧みず、ただ人を救うことを希むべし
緒方洪庵訳『扶氏医戒之略』より

緒方洪庵の父は、足守藩士で藩財政のため大坂で奔走していました。父に同行した洪庵は、大坂の地で洋学にふれ、医者・蘭学者・教育者への道を歩みます。

・西洋医学書を翻訳し知識普及
・医者として実際に人々を救済
・適塾における多くの人材育成

これらの業績を挙げた洪庵は、幕府に召し出され、医業に務める中で亡くなります。

当時大流行した感染症「天然痘」や「コレラ」に立ち向かうとともに、幕末維新の日本を担った人材を数多く育てた緒方洪庵。まさに「人のために生きた」一生でした。

もっと知ろう！　緒方洪庵

1 「適塾」出身者が近代日本をつくる

適塾内観/適塾記念センター提供

洪庵が医師開業と同時に開いた適塾は、蘭学等の知識を実践する人材を輩出。福沢諭吉、大村益次郎、佐野常民など幕末から明治の偉人が多く学びました。

2 足守でワクチン接種

謨斯篤牛痘説 嘉永3(1850)年二月号/岡山県立博物館所蔵

嘉永3（1850）年、藩主の命を受けた洪庵は、足守に帰り種痘（天然痘予防のワクチン接種）を県内で初めて行いました。周辺地域に出向いて種痘も行い、金川の難波抱節ら医師に方法を伝授して普及に努めたといいます。

3 妻・八重との二人三脚

緒方八重、緒方洪庵肖像画/適塾記念センター提供

洪庵が大坂で医者を開業すると、あっという間に評判が広がり、適塾の塾生も増えたといいます。17歳で洪庵と結婚した八重は、塾生を見守り母として慕われたといいます。また洪庵の研究を助け、常に寄り添う最大の理解者でもありました。